

報道関係各位

2010年10月6日
森ビル株式会社

**「アークヒルズ」「愛宕グリーンヒルズ」
「生物多様性につながる企業のみどり100選」に認定
今年春の「六本木ヒルズ」認定と合わせ、森ビルから3施設が優良事例に**

森ビル株式会社（東京都港区）が管理運営する『アークヒルズ』および『愛宕グリーンヒルズ』が、この度、財団法人都市緑化基金による「生物多様性保全につながる企業のみどり100選」に認定されました。

「生物多様性保全につながる企業のみどり100選」とは、企業が取り組む身近なみどりの保全・創出・活用の優良な事例を“SEGES 生物多様性特別認定”として公表し、地球環境を視野に入れた（Think Globally）、足元から取り組む生物多様性保全活動（Act Locally）を推進することを目的としています。

財団法人都市緑化基金による選定理由

【アークヒルズ】

建築物上の緑化として先駆的な事例であり、25年を経た現在、周辺地域の自然生態系にとっては貴重な核となっている緑地である。ここでのガーデニングクラブの活動やイベントは、都市の中の自然の価値を人々に普及しているという意味でも重要な取組みとして評価できる。

【愛宕グリーンヒルズ】

都心部の再開発にあたり、歴史・文化・自然的資源としての愛宕山を、基本的にその環境を保全し都市の環境インフラとしての緑地に組み込んだ点が秀逸である。緑のネットワークや遺伝資源への配慮への取組みも評価できる。



アークヒルズ（屋上のアークガーデン）



愛宕グリーンヒルズ

【本件に関するお問合せ先】

森ビル株式会社 広報室 深野、森澤

TEL : 03-6406-6606

FAX : 03-6406-9306

E-mail : koho@mori.co.jp

森ビルは、「Vertical Garden City(立体庭園都市)」のコンセプトのもと、「環境と緑」を街づくりにおけるミッションの一つに掲げ、緑豊かで地球環境にやさしい好環境都市の形成に貢献しています。開発を通じて生まれたオープンスペースや建物の屋上を積極的に緑化するだけでなく、質の高い緑の実現を目指しています。

生まれた緑はヒートアイランド現象の緩和に貢献し、都市環境を改善することはもちろん、コミュニティ形成の場としても機能しています。

今後も地球環境に優しく魅力ある街づくりを積極的に推進するとともに、首都東京のさらなる魅力向上に貢献してまいります。

屋上緑化の先駆け

● アークヒルズ (東京都港区・1986年竣工)

1986年に民間初の大規模再開発事業として誕生。職住近接、都市と自然の共生、文化の発信を具現化した都市開発事業です。オフィス、住宅、ホテル、コンサートホールなど多彩な都市機能を備えつつ、「都市に自然を取り戻す」ことを主要なテーマに掲げ、大規模な屋上緑化や並木の整備を行っています。

竣工直後の1990年に23.3%だった緑被率は、16年後には37.5%にまで増えました。緑の量だけでなく植種など緑の質にも配慮し、25年近い維持管理の過程でも、植栽計画の見直しや季節の草花を植えることは随時行っています。

起伏に飛んだ地形沿って、散策できる並木道や通り抜けできる通路も整備。誰でも四季の緑や小鳥・虫の鳴き声を楽しみながら、敷地内を散策することができます。

また、緑をコミュニティの場として積極的に活用し、人々が都市の中で自然と触れあえる機会をつくっています。

「ガーデニングクラブ」を運営し、ガーデニングを通じた緑づくりへの一般参加を促すほか、子どものためのワークショップ「緑のヒミツツアー」を開催するなど、敷地内の緑地を環境学習の場所として活用しています。



ガーデニングクラブの活動風景



緑のヒミツツアーの様子

愛宕山周辺の自然と調和する再開発

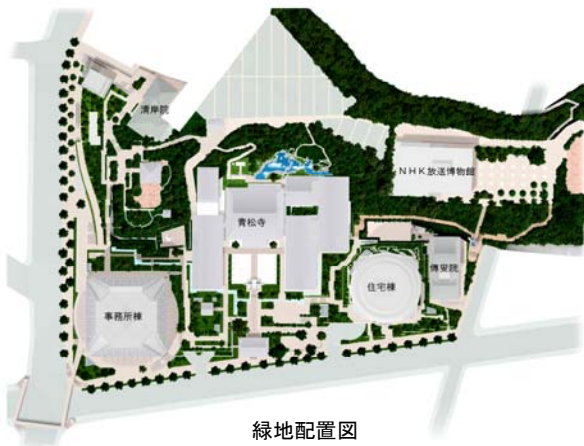
● 愛宕グリーンヒルズ (東京都港区・2001年竣工)

愛宕山の豊かな自然と、オフィス棟・住宅棟の2つの高層タワー、3つの寺院、NHK放送文化博物館などの建築物が融合するように計画された再開発プロジェクト。緑地のネットワーク化『エコロジカル・ネットワーク』を目指し、皇居・日比谷公園から続く緑の軸を、愛宕山を介して、芝公園へつなぐことを視野に入れて設計しています。このため、既存の斜面緑地の地形や植生をなるべく維持する計画がなされています。

2001年の竣工から5年を経た2006年時点での緑被率は44.43%に達しました。愛宕山の植生を保存すべく、既存樹のうち比較的若い樹木を移植・圃場養生・定植復旧。また、既存樹の足元に芽吹いていた実生苗や既存樹の種子を圃場で育て、苗木として植えることで、既存樹の遺伝子を敷地内に戻し、育てることに力を入れています。



愛宕グリーンヒルズ外観



緑地配置図



青松寺とタワー



愛宕グリーンヒルズ全景

参考資料

毛利庭園を中心とした豊かなみどり

● 六本木ヒルズ（東京都港区・2003年竣工）

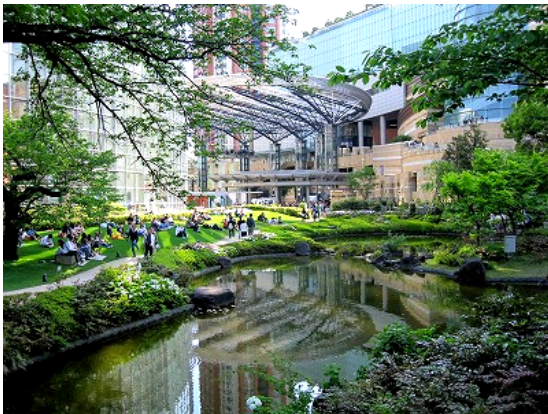
六本木ヒルズは、再開発によって生まれた空間を庭園や広場、散策路などのオープンスペースとして有効活用、また建物の屋上を積極的に緑化することで、敷地の約25%が緑で覆われています。屋上庭園にある水田・菜園を利用した農業体験や、植物をさまざまな視点から学ぶガーデニングクラブなど、「みどり」を活用したコミュニティ活動も積極的に展開しています。



財団法人都市緑化基金による六本木ヒルズの選定理由（2010年5月認定）

六本木という都市の中心部で、毛利庭園を中心に豊かで質の高い「みどり」を保全していることが高く評価されます。また、一般の人々が参加できるガーデニングクラブの活動を通し、地域とのコミュニケーションが図られています。

屋上庭園での動植物への配慮では、周辺の緑地から自然に移入する可能性のある種も対象とすることで、地域の自然とのつながりが更に明確になると期待されます。



毛利庭園



屋上庭園での田植え



毛利庭園の桜



屋上庭園俯瞰

都市再開発に生物多様性の視点を取り入れた日本初の試み

● 虎ノ門・六本木地区再開発 (東京都港区・2012年竣工予定)

虎ノ門・六本木地区市街地再開発計画では、「緑の生活都心」をコンセプトに、居住機能と商業・業務機能等が高次に複合した国際性・文化性の豊かで魅力ある街づくりを目指しています。その柱の一つとして、生物多様性に配慮した外構設計を実施。地域の自然再生や「生き物環境」の向上を試みています。こうした取り組みの結果、本事業では、生物多様性の保全や回復に資する取り組みを定量評価する認証である JHEP 認証において 09 年 11 月、日本初となる最高ランク(AAA)を取得いたしました。



外観イメージ



全体外構植栽計画

虎ノ門・六本木地区第一種市街地再開発事業では、以下の点において生物多様性の保全や回復に貢献しています。

1. 在来種・潜在自然植生をベースとした緑地：計画地の地域植生を再生する
※主な在来種：スタジイ、タブノキ、アラカシ、エゴノキ、ヤマボウシ ほか
2. まとまりのある緑地：緑化効果を高め周囲と結ぶ
3. 緑被ボリュームの高い立体的な緑地：生きものの住みやすさに貢献する
4. 特殊な環境要素：枯れ木・樹洞・落ち葉といった環境要素への配慮

森ビルは、当事業が今後の都市緑化におけるリーディング・プロジェクトとなるよう努めるとともに、都市域におけるエコロジカル・ネットワークを構築し、生物多様性に配慮した街のモデルづくりを進めてまいります。



敷地内の緑地や、街路樹をつなぐ、広域な緑のネットワーク